
境界の夕日

葱ゆとり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界の夕日

【コード】

N0230M

【作者名】

葱ゆとり

【あらすじ】

人生をどこでどう間違ってしまったかわからない一人の女の子の物語です。

赤い空が濃紺に染まって今日が終わっていく。

学生生活はただ毎日をかむしゃらに走っていればよかった。辛いことも、楽しいことも全部、ぜんぶ包括して顧みることなんてなかったから。

この部屋の窓から見える今日が終わることになんの躊躇いもなかった。

ひきこもるのは案外早くて、驚くほど簡単だった。

もともと学校がたまらなく好きというタイプでもないし、年中行事も大して顔を出さなかった。ただなんとなく勉強ができて、もてはやれただけで友達なんて居て居なかったようなものだ。

そこそこの大学に入ったら誰も何も言わなくなった。周りは楽しそうなのにわたしは離れてずっとひとりぼっちだった。

いや、ひとりぼっちを気取っていただけなのかもしれない。今はもうわからないけれど、とにかく努力嫌いのわたしはあつという間に堕ちていった。

部屋の中でパソコンに踊らされて1日を終える。

何も残らない1日を振り返ること、見えない明日を考えること、もてはやされた自分からは考えられないほどみじめな毎日。もてはやしていた連中はきつと今のわたしを見たら腹を抱えて笑うだろう、何度も思った。それらに蓋をして懸命に液晶に浸かる。

わたしは悪くない。こんなみじめなわたしを仕立て上げた世界が悪いんだ。

夜は良い。何も見えないから。

真つ暗で自分も見えない。寧ろ、自分なんて最初から存在していなかったみたいで心地がいい。

けれど決まって朝が来るころ皮膚を掻き毟るほど無性に苛立たしくなる。

こんなんじゃないかった。こんなの自分じゃない。こんなはずじゃなかった。わたしは、わたしは。

目が覚めると決まって夕方になっている。

窓から射す温かい色の光すらも、わたしを嘲笑^{わら}っているように思えた。むしゃくしゃする。

それは誰にあてられたものではなく、自分への不満ですらない。わたしは気付いていた、この感情に。

努力嫌いが怠惰になって、中途半端な完璧主義だったわたしはぬるま湯にすらつかれなかった。自分をきざむ勇氣も、まして他の誰かを傷つける行為にも至れない。ニユースを見ること、それすらわずかな変化が怖くなっていた。

ただただ水槽の中で息を殺して漂うだけ。何も見ず、何も聞こえない。水が汚い、それすらの不満も押しだせないまま。

飛び起きて、カーテンを開く。鍵を開けて外の空気を入れ込む。

それだけの単純なことすら久しくしていなかった気がする。季節は夏へ向かっている。温かい、少し土臭いにおいを孕んでいた。

おかしかった。涙が溢れた。

かびですら、この世界にこんなに充滿している。汚く、醜悪だ。どこまでいってもこの世界は「おしまい」なのだ。

この土臭さはカビくささなのだと最近まで知りもしなかった。

知らないうちにどんどん大人になっていく。わからなかったこと、わかりたくないことがわかってしまう。近しかった人たちが居たは

ずなのにきつと呼んでも届かないのだろう。わたしのこの気持ちを
いったい誰がわかってくれるのか。わかりはしない、これがわたし
の生だから。

世界は温かな光に満ちていた。満ちているはずだった。

あの夕日を振り返ることのなかったわたしはわからないが故に幸せ
で、哀しいくらいに幸せで。

何も考えなくてよかった。何も要らなかった。ただ明日があるだけ
で、それだけで幸せだったのだと。

夕日より赤くなつたわたしは反芻し続けていた。

(後書き)

初投稿だったので短めなものを一点上げさせて戴きました。

きつと誰もが1度は過去を振り返って昔の自分と比較するのではないでしょうか。

年を重ねたらそれだけ比較対象が増えていく。あの頃はよかった、あの頃はこんなふうだった、と。

それが生であり、人の奇跡であるのならこれ以上のお荷物はないと考えてしまいます。

もちろん、それが今を支える糧になっていることもあるでしょう。けれど、世の中にはいろんなものに縛られてみんな生きています。糧も裏を返せば鎖かも知れません。

しよっぱなはこんなに重たくなってしまいました。本業はポップな感じなので長編になるときはそんな感じ！
ここまで読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0230m/>

境界の夕日

2010年10月22日00時31分発行